

みやち 宮地 アンガス

2020.3.15

日曜論壇

新型コロナウイルスの影響によりイベントが軒並み中止となり、一時的に閉館した観光施設も多い。行政や観光関係者は対応に追われ、日々大変な苦勞をしている。しかもウイルスが国境を越えて世界中に広がったことで、海外でも多くの人が旅行を控えている。そのため訪日観光(インバウンド)が激減し、県内の外国人観光客も減っている。これまで順調に伸びてきた日本のインバウンドにとって、想定外の事態である。



宮地アンガス

さらに、今後ウイルスの拡散がどう収束するのか専門家も分かっていないという。今のよう

観光回復へ早期の準備を

状態が続けば、観光業界や接客業関係者の苦勞も増す。そこで、過去のケースから観光の回復の手掛かりがないか調べてみたところ、一つの事例が見つかった。2003年の香港である。

同年2月、香港の観光産業は重症急性呼吸器症候群(SARS)により不測の事態に陥った。

翌7月にウインドが回復した。翌7月は前月の3倍のインバウンド客が訪れ、8月には香港史上2番目に多い164万人が海外から訪れた。その後、12月、04年1月と2カ月連続で外国人観光客が170万人を超え、インバウンドは驚く速さでV字回復を遂げたのである。

計画に着手し、綿密に準備を進めていたことである。自然災害と異なり、感染症による観光被害は、WHOの終息宣言というターニングポイントがある。ウイルスを抑え、観光客の安全安心を確保することは最優先だが、いち早くウイルス終息後の準備をすることで、速やかなV字回復が可能だと香港の事例が示している。尋常でない時期が

学校再開時期の明言回避

安倍晋三首相が新型コロナウイルス対応を巡り実施した2度目の記者会見は、改正新型インフルエンザ等対策特別措置法に盛り込まれた緊急事態宣言や、経済への深刻な影響に対する国民の不安を払拭するのが狙いだった。だが感染の終息や小中学校などの再開時期は明言を回避。未知の部分が多いウイルスとの闘いは道半ばである苦境が浮き彫りになった。

新型コロナウイルス対応

を巡り、野党などから後手に回っているとの批判が噴出。官邸筋は「クルーズ船など水際対策には、あらゆる手を尽くしてきた経緯をきちんと説明したい」と首

会審議で成立した。与野党内では、国民の理解を十分に得られたのかとの問題意識を持つ議員が少なくなかった。宣言は「伝家の宝刀」(高官)であり、あくまで最終手段だと首相の口から明確にしておく必要がある。

周辺は「感染拡大が落ちたいたら、景気回復へ全力を尽くす。そうした国民を気づけるメッセージを出さなかった」と強調した。ただ4月以降に小中高校などが再開できるのか記者に問われ「専門家の意見を聞きながら判断をしたい」と述べるにとどめた。首相は国民生活に多大な影響を

Wundが回復した。翌7月は前月の3倍のインバウンド客が訪れ、8月には香港史上2番目に多い164万人が海外から訪れた。その後、12月、04年1月と2カ月連続で外国人観光客が170万人を超え、インバウンドは驚く速さでV字回復を遂げたのである。

Uキャンペン」、香港ホテル協会(HKHA)が「Be My Guestキャンペーン」を世界に打ち出し、外国人観光客数の回復につなげたのである。

特筆すべきは、SARSの影響がひどかった03年4月、行政や民間、香港ホテル協会(ジャパン・ワールド・リンク社長)

がそれぞれインバウンド回復計画に着手し、綿密に準備を進めていたことである。自然災害と異なり、感染症による観光被害は、WHOの終息宣言というターニングポイントがある。ウイルスを抑え、観光客の安全安心を確保することは最優先だが、いち早くウイルス終息後の準備をすることで、速やかなV字回復が可能だと香港の事例が示している。尋常でない時期が

境続く